

輸出事業計画

※申請者名：株式会社カクニ茶藤、品目：茶

1. 輸出における現状と課題

緑茶の輸出量は、2005年（平成17年）の21億円から、2022年（令和4年）には219億円と、大幅に増加している（財務省貿易統計より）。輸出先の国や地域も拡大傾向にあり、令和4年の輸出額は過去最高額を記録している。この背景には、世界的な日本食ブームやヘルシー志向、飲料、製菓・製パンなどの加工食品用原料として抹茶の認知度や需要が拡大している事があげられる。

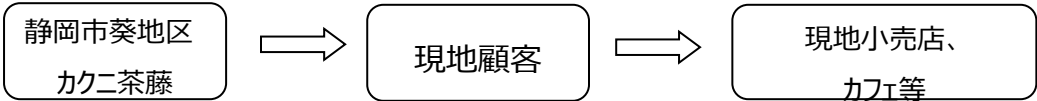
【拡大する需要に応じて、解決すべき課題】

- ・輸出可能な原料の確保
- ・FSSC22000に即した粉碎や包装ができる製造・加工施設の整備
- ・本社茶製造施設の追加整備と国際認証取得
- ・積極的な販路開拓

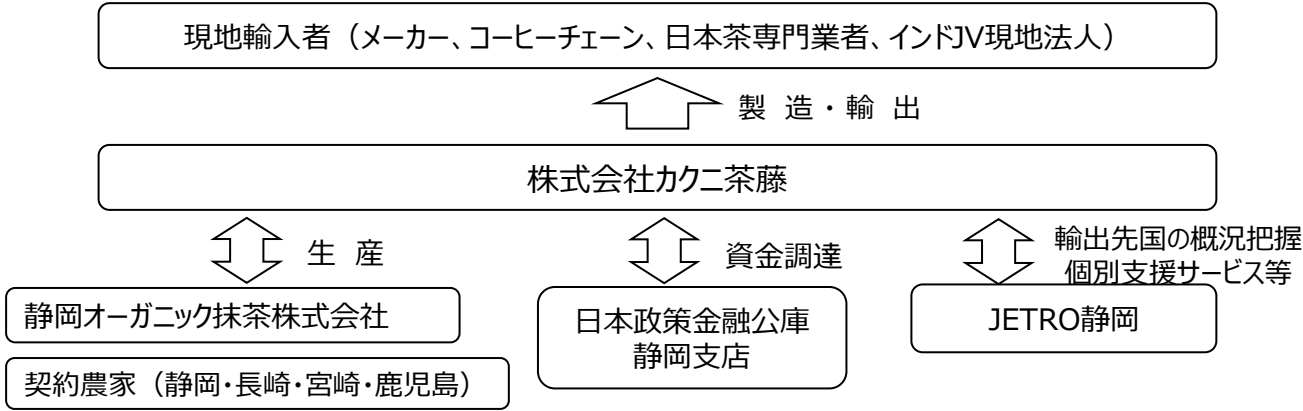
2. 輸出事業計画の取組内容

- ・茶の生産農家や外注製造委託先などを取り込んだバーチャルインテグレーションによる強固なサプライチェーンを構築
- ・当社自身も一次産業に直接参入し、自らのマネジメントにより高品質な原料の確保に取り組む
- ・2023（令和5）年に追加整備（粉碎・仕上げラインの改修）、2024（令和6）年に粉末状緑茶の個包装ラインの改修を行い、有機JAS認証、FSSC22000を取得する。
- ・ホームページのリニューアルし、さらなる新規顧客開拓を図る。

【主な商流】



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和元年2月）	目標年（令和12年2月）
輸出額（千円）	451,681	1,097,490
輸出量(kg)	223,004	259,574
輸出先国	米国、EU・英国、インド、スリランカ、マレーシア、台湾	米国、EU・英国、タイ、インド、スリランカ、マレーシア、台湾